

テレビCMオンライン化対応

1. はじめに

これまでテレビ局に搬入されるCMはテープで搬入されていた。ネット回線の普及によりCM素材のオンライン化が2014年に検討開始され、2017年10月に首都圏を中心にスタートした。

HBCでは、2020年の新社屋完成時に運用開始予定でしたが、既存構成で対応する方法を検討し、システムの自社構築行い開始する事ができたので報告する。

2. 運用方法

CMオンラインのデータは、CMファイル送信と同時にメールでCM情報が送信されてくる。この送信されてきたメールから、営放システムでファイリング指示の作成、CMバンクに送信するという流れとなる。

簡易的な対応なので、費用を軽減する事を前提に各機器とのインタフェースをどのようにするか？がこのシステムの重要な部分となる。

3. システム構成

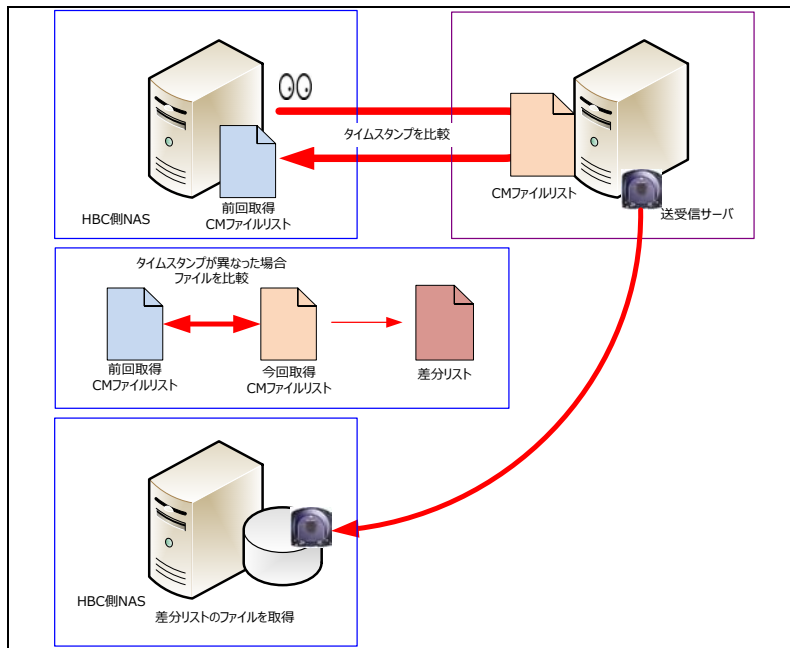
システム構成は、CM素材の送信側が準備する機材（以降、受信サーバと表記）と放送局側が準備する機材に分けられ、HBCは受信サーバに届いたCM素材ファイルの取得用の機器を準備する。

CMオンラインは、営放システムとは異なるネットワークで構成されているが、CMデータの確認は複数の端末で行えるようにするため、ファイアウォールを介して営放システムと接続した。これにより、サーバから局側サーバ（NAS）に取得したCM情報の確認を行える環境が整った。

4. ファイル取得とファイリング指示

☆CMオンラインに対応するには、CM受信サーバとの通信

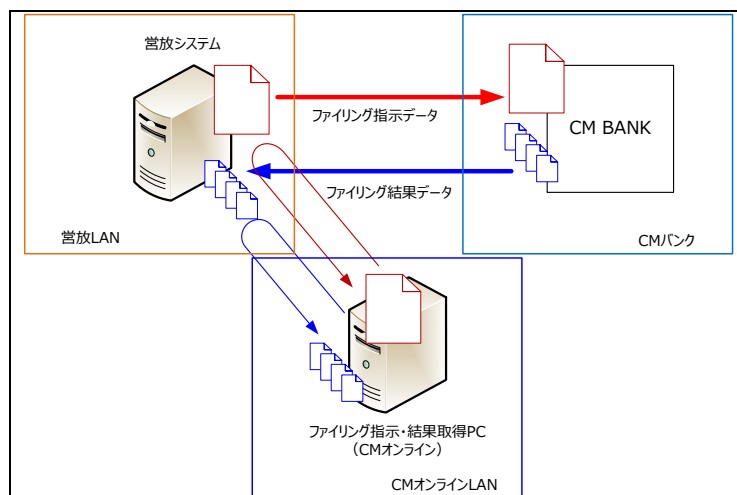
CM受信サーバへCM素材は任意のタイミングで届きます。CM受信サーバでは、素材管理ファイルがあり、配信されてきたCMファイルリストが記載されているので、このファイルリストを一定間隔で読み、前回読み込んだファイルと比較、新規ファイルが追加されていた場合、追加ファイルを取得するという仕組みを構築した。



取り込んだCM情報は、ブラウザを利用して確認することができるようにした。

☆営放システムとCMバンクの通信と確認画面作成

営放システムで素材発番、CMバンクへ登録指示をおこない、登録を完了する。登録完了後、結果ファイルが営放システムに送信されるため営放システムから、ファイルを取得し、オンラインファイルの到着から登録までの管理を行う事とした。



画面表示はすべてブラウザを使用するようにした。動作は以下のようになる。

- ① ファイリング指示・結果取得 PC は、定期的に営放サーバの素材登録指示ファイルと登録結果ファイルを確認。
- ② ファイリング指示ファイルを取得すると、未ファイルとして表示。

③ ファイリング用の印刷を実行。(イメージは下図)

			
スポンサー名		代理店名	
素材コード		10桁コード	
HABCDEF G  *01234567*		0123=456789  *0123456789*	
EDPS情報		オンラインファイルメタ情報	
素材名		CM名	
素材長	秒	映像モード	
開始日		音声モード	
終了日		制作会社	
CMBメモ		更新日	
EDPSメモ			
担当者			
ファイリング指示日			

- ④ 表示されたバーコードの左側を CM バンク、右側をユニバーサル・プレーヤーのバーコードリーダーで読み取り素材スタンバイ、登録作業を行う。
- ⑤ 結果ファイルが営放システムへ返信。
- ⑥ 結果ファイルをファイリング指示・結果取得 PC で取得すると、登録済みになり、未ファイリング画面は空となる。

5. まとめ

CMオンラインによる素材登録をいかに簡単に行えるか?を目指してシステムの構築を行った。当初、ユニバーサル・プレーヤーは素材呼び出しには「10桁のCMコード」を手入力するという運用を想定していたが、入力作業の軽減とミスをなくするため、バーコードリーダーを利用する事を目指し、ファイリング用にバーコードを印刷する事にした。これにより、作業がかなり軽減された。

システム開発を行う事で、業務改善を行えるよう今後も対応していきたいと思う。